

研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
食品安全研究会					
食品微生物研究部会	食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で(企業の枠を超えて)研究し解決を目指す。食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。	部会員が集まり定期的に交流や情報交換を行える場としての部会運営の再整備(アフターコロナ対応としての集まる場の整備)新規研究PJの立案および他機関との積極的な連携の実施	<p>【全体】</p> <p>・「内部標準管理」と「標準芽胞液」に関する各社の課題認識やニーズを調査するためのアンケートを実施。結果を集計し解析中。</p> <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <p>・5-6月は活動なし。飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を7月中旬頃に開催予定。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <p>・活動無し。</p> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <p>・活動なし(追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中)。</p> <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <p>・活動なし(検証試験の対外発表に向け、7/10にWebにて打合わせ予定)。</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p>	—	

			・進捗無し。		
食品リスク研究部会	食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	① 食品リスク研究に関する勉強会を3回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。	6月24日に部会を開催した。 ① 第1回勉強会は8月29日にハイブリッド開催で「食品添加物 二酸化チタンの安全性を取り巻く状況」と題して、国立医薬品食品衛生研究所の小川久美子先生と畝山智香子先生にご講演いただくことが決定した。 第2回は食品と食品添加物のアレルギー評価に関するテーマで開催する方向となった。 ② 進捗なし	第2回勉強会は9月末～10月開催予定。第3回勉強会は11月～12月開催予定。	
香料研究部会	食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—	—	—	—
食品領域の動物実験代替推進プロジェクト (AAT プロジェクト)					
全体進捗	<活動目的> 1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを	・研究 WG テーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。	・6月5日 プロジェクト全体会議を開催 (外部会議室 (森下) & Web)。 ・プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。プロジェクトの	・外部発表 (2024年11月 第37回日本動物実験代替法学会大会 一般演題) を計画。	・国立医薬品食品衛生研究所 (国衛研)、独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)、アカデミア等の専門家 ・関連学会 (日本動物実験

	<p>確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p> <p>2) 動物愛護の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。</p>	<p>・情報収集・発信（国際ワークショップ内容のレポートによる発信、シンポジウムの開催）。</p>	<p>外部連携活動の状況について共有するとともに、外部発表（第37回日本動物実験代替法学会）の実施について承認。</p>		<p>代替法学会等）</p> <p>・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</p>
体内暴露予測ワーキンググループ (WG)	<p>食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装</p>	<p>① 昭和薬科大学山崎研に構築した in silico 動態予測モデルの実装</p> <p>② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握</p> <p>③ ケースレポート対象化合物の体内曝露予測</p>	<p>① in silico 動態予測モデルのガイダンス作成を進めた。特に今回は、ケミカルスペースと in silico 動態予測モデルによる血中濃度予測結果の関係性を確認した。その結果、食品成分は特定のケミカルスペースで予測精度が低下したが、その他成分群ではその傾向が認められないことが分かった。以上の結果を含め、ガイダンス記載内容の議論を進めた。</p> <p>②, ③ 進捗なし</p>	<p>① in silico 動態予測モデルのガイダンス作成に向け、以下対応を引き続き進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品成分の定義の明確化</li> <li>・食品成分の予測精度と成分の特徴の関係性の明確化</li> <li>・血中濃度予測が可能なヒト試験の条件の明確化</li> </ul>	
データベース WG	<p>食品成分の既存毒性情報(文献等)を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p>	<p>有害性評価支援システム統合プラットフォーム (HESS) を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法</p>	<p>昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を実施。合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意済。データベ</p>	<p>データベースの公開に向け、商業利用の課題について対応継続（有償文献由来のデータの掲載可否確認、データベースの順次登録検討等）。</p>	

		の AAT 参画メンバーへの公開	ースの HESS への登録や、論文データの商業利用・知財の課題について、HESS を管理している独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) や参画企業内専門部署と相談を実施した。結果、知財に関する大きな課題はないが、商業利用については、無償・有償、ILSI 内外の展開問わず、文献由来のデータについて、発行元に確認する必要があることを見出した。		
ケースレポート WG	NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。	第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとし、ラット肝細胞を用いた試験から in vitro PoD を求め、評価スキームの妥当性を検証する。	評価対象を植物アルカロイドで肝障害報告のある riddelliine とし、BMD 解析 (EFSA Bayesian モデル) を用いて PoD を算出して、評価スキームの検証を実施中。 文献情報を活用し、ラット肝細胞試験における in vitro PoD と、反復投与試験における in vivo PoD の曝露濃度予測値とを比較した。同様に、ヒト肝細胞試験における in vitro PoD と、有害事象における曝露濃度予測値とを比較することで、評価スキームの検証を進めている。評価対象を食品だけではなく医薬品を含めた既存化合物に広げ、BMD 解析手法の妥当性の検証を併せて実施している。	ラットおよびヒトでの検証を実施することで評価手法の課題を抽出し、外部専門家と連携しながら設定した評価戦略の妥当性の検証を進める。 Riddelliine および既存化合物で検証結果をまとめ、第 37 回日本動物実験代替法学会 (2024 年 11 月 29 日～12 月 1 日) での発表を計画している。	

<p>企画運営 WG (国際ワークショップ &amp; シンポジウム WG より変更)</p>	<p>動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。</p>	<p>評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。</p>	<p>食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。第2回目の演者として筑波大学の市川先生にご講演の承諾をいただいた。講演会は胃消化シミュレータの話題を中心に森下文化センターを主会場とした Zoom でのハイブリッド方式で、2024 年 9 月 19 日 (木) に開催予定である。現在は講演内容の具体化や案内文書作成等の準備を進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会へ向けた市川先生との事前打ち合わせ (7/11)。</li> <li>・第3回目の演者候補の先生への講演依頼。</li> <li>・食品安全委員会による勉強会の開催準備。</li> </ul>	
<p>研究会・部会・委員会・分科会</p>	<p>活動ビジョン・ゴール</p>	<p>年度目標</p>	<p>進捗・課題</p>	<p>予定・行動計画</p>	<p>関連団体等</p>
<p>バイオテクノロジー研究会</p>	<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERA プロジェクト調査報告 (年4回)</li> <li>2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ</li> <li>3. 第16回 ISBR (International Society for Biosafety</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度第2回研究会を6月6日に開催。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年4月の ISBR での DT パラレルセッションの内容を Frontiers in Bioengineering and Biotechnology に投稿、英語論文、和訳と要約を作成。関係省庁へ配布され、論文2報と併せて ILSI のウェブサイトに掲載されたことが報告された。</li> <li>2. 2023年12月開催 高度精製ワークショップの開催概要を機関誌「イルシー」No.158 に投稿した原稿を確認。5月に出版さ</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 67 のレビュー、発行、配布</li> <li>・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿</li> <li>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査</li> <li>・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議</li> </ul>	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 &amp; つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 作物研究部門</p>

	<p>際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<p>Research)2023 への安全性評価の専門家の派遣 4. 遺伝子組換えタネの ERA に関する研究成果の論文発表</p>	<p>れたことが報告された。</p> <p>3. 【Novel Food、フードテック、精密発酵 関連 各国認可・レギュラトリー状況の調査研究】 精密発酵の事例の分別、各国の規制状況を整理した review ペーパーを作成し、当局へ提出、シンポジウムでの発表等に用いるとの提案がなされた。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.66 の発行、送付先の見直し、配布</p> <p>5. 植物バイオテクノロジー報告書 No.67 原稿のレビュー及び今後の運営方法について課題が提起され、議論された。</p> <p>6. 遺伝子組換え青色胡蝶蘭「Blue gene」の研究開発に関して機関誌「イルシー」No. 161 に掲載が決定。出版は 2025 年 2 月。</p>		<p>横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
--	-----------------------------------	--	---	--	---

栄養健康研究会

<p>栄養研究部会</p>	<p>「健康寿命延伸」はグローバルな持続可能な開発目標 SDGs の目標 3「すべての人に健康と福祉を」に合致することから、「健康寿命延伸」をキーワード</p>	<p>「健康長寿延伸」のための最新のエビデンスを継続して発信していく。</p> <p>●公開セミナー(有料)を Zoom ミーティングで 1 年</p>	<p>・ 第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」を開催した。詳細は以下の通り。 日時：6 月 19 日 (水) 13:20～15:30 場所：オンライン (Zoom) 参加登録者数：88 名</p>	<p>・ 2024 年度の公開セミナーシリーズは第 4 回で一旦終了し、今後はできる限り対面で部会を開催し、2025 年度以降の活動について議論を継続する。</p> <p>・ 第 4 回公開セミナーのオン</p>	
---------------	--	--	--	--	--

	ドとした活動を継続する。	に数回開催する。 ●セミナー参加登録者に対しては、オンデマンド配信を実施する。	講師と演題：成田美紀先生（東京通信大学 人間福祉学部）「健康寿命の延伸に向けた老年期の栄養・食生活の在り方を再考する」、清野諭先生（山形大学 Well-Being 研究所）「これからの高齢者の身体活動・運動のあり方を考える：最新のガイドライン等を踏まえて」 ・上記の公開セミナー終了後、講師2名と栄養研究部会員でオンライン懇話会を実施した。 ・2024年度第4回部会を5/15に開催し、上記公開セミナーの最終打ち合わせ、および今後の部会活動についての意見交換を行った。	デマンド配信を7月1日～7月31日に実施予定。 ・2024年度第5回部会を9月20日（金）に花王(株)すみだ事業場（墨田区）にて、第6回部会を10月25日（金）に森下文化センター（江東区）にて開催予定。	
GR プロジェクト	食品・食事の血糖応答性の簡易評価法（GR法）の確立と普及	GR法の確立・発表論文発表 他施設研究を基礎とした測定系の安定化および簡易化を目標とする	低GI食品を含めた代表的な食品のGR値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を進めた。	論文再投稿準備 GR法詳細条件の検討 GI値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科 日本食品分析センター
茶類研究部会・茶情報分科会	茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交換を深	—	—	—	—

	めると共に、外部からも情報を得る。				
CHP (Center for Health Promotion)					
Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及</li> <li>➤ 介護予防教室の開催（自治体、社会福祉協議会、企業）</li> <li>➤ 地域リーダーの育成（大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター）</li> <li>➤ 論文等、科学的成果の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 墨田区委託事業</li> <li>・2024年度すみだテイクテン春教室開催（5/9, 16, 23, 30, 6/6, 13, 20, 27, すみだ生涯学習センターユートリヤ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 論文投稿準備</li> <li>➤ ホームページリニューアル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 石巻専修大学</li> <li>✓ 鹿児島大学</li> <li>✓ 島根大学</li> <li>✓ 札幌医科大学</li> <li>✓ 東京都健康長寿医療センター研究所</li> <li>✓ 国立健康長寿医療センター</li> <li>✓ 墨田区</li> <li>✓ 横浜市社会福祉協議会</li> <li>✓ 岩国市社会福祉協議会</li> <li>✓ 吉賀町社会福祉協議会</li> <li>✓ 津和野町シルバー人材センター</li> <li>✓ 益田市シルバー人材センター</li> </ul>
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改	途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP) のプロジェクトとして、	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ フィリピン：「フィリピンの栄養強化米プロジェクト2022（調査研究）」</li> <li>2024年パリ栄</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本年度プロジェクト未定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Food and Nutrition Research Institute (FNRI：フィリピン食品栄養研究所)</li> </ul>

善と栄養教育” プロジェクト	工場など職場の栄養 改善プロジェクトを 東南アジア各国で推 進。	養サミットに 向けプロジェ クトの総括を 実施。			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ベトナム：「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」ビジネスモデル構築、並びに 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本年度プロジェクト未定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ミャンマー：「完全オンラインによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教育」栄養教育推進に焦点を当てたビジネスモデル構築に向けた展開を計画。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本年度プロジェクト未定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ National Institute of Nutrition</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ インドネシア:「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査 2022」ビジネスモデル構築、並びに2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本年度プロジェクト未定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.)</li> </ul>
CHP 全体	日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGs に基づいた社会貢献を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ SUN Business Network Japan (仮称: SBNJ) 事務局機能誘致に向けた活動継続。</li> <li>➤ SDGs 貢献プラットフォームの形成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 進捗無し</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ SUN Business Network Indonesia</li> </ul>
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
国際協力委員会	アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規動向及びリスク評価等の情報収集・共	9月19~20日開催 予定の Asia Life Sciences Institutes Network (ALSIN)	<進捗> 1. 「イルシー」誌投稿:掲載終了 2. 6/4 委員会開催。以下の課題について意見交換し検討を進めた。	1. 7月22日に委員会を開催し、ALSIN 会議 (参加者・演題) について確認と検討を進める。	

	有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	会議(アジア地域 ILSI 支部との情報交換会)への参加、情報交換	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>① ALSIN 会議・シンポジウム対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果の確認</li> <li>・発表テーマ・発表者の確定</li> </ul> <p>② 6月 ILSI Taiwan の訪日対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日日程随同行希望の確認</li> <li>・6/21 意見交換会対応</li> </ul> <p>3. ILSI 台湾訪日の対応：6/21 意見交換会。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AAT プロジェクトより現在の取り組みについてご講演いただいた。</li> <li>・国際協力委員会として、以下2件を報告し、ディスカッションを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 紅麴問題</li> <li>2) 食物アレルギー分析法に関するコラボテーマについて</li> </ul> </li> </ul>	2. ILSI Korea より、2018年に続き MFDS (Ministry of Food and Drug Safety) の訪日(機能性表示食品に関する意見交換)希望があることから協力の要請あり、対応を検討中。	
食品機能性研究会・AI 栄養・機能性研究部会					
AI 栄養機能プロジェクト分科会	実生活から創出される莫大な量のリアルワールドデータについて、最新のデータサイエンスおよび AI 技術を活用し、様々な生活習慣と健康との関係性を解明すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイル予測モデル論文化</li> <li>・フレイルナレッジグラフ作成</li> <li>・ナレッジグラフスキル(育成)</li> <li>・北大阪健康医療都市(健都)での</li> </ul>	第1期で活動を終了することが決まり、活動は継続しないことが決まり、3/5に開催された「AI 栄養・機能性研究部会第1期報告会」をもって本分科会の活動を終了した。		

	で、一人ひとりに適した情報提供を可能とする AI システムを構築する。	発信			
AI ダイアトロフィ研究部門分科会	数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝モデルの領域拡大</li> <li>・機能伝達経路のイジングモデル</li> <li>・AI 教育</li> </ul>	第 2 期スタートに向け、参加企業勧誘（現在 3 社）。		
情報委員会・編集部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・研究活動とその成果の発表</li> <li>・科学情報の普及</li> <li>・国内外の関連機関との交流・連携</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動報告配信（年 6 回）</li> <li>2. 機関誌「イルシー」の発行（年 4 回）</li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（年 4 回）（女子栄養大学出版部との共同事業）</li> <li>4. 種々出版物発刊のコーディネーター</li> <li>5. ホームページ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2024 年 3, 4 月分配信（5 月）。</li> </ul> </li> <li>2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 158 号：発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信（5/20）</li> <li>・ 159 号：編集中（2024 年 8 月発行予定）</li> </ul> </li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 124 号：2024 年 5 月発行</li> <li>・ 125 号：編集中（2024 年 8 月発行予定）</li> <li>・ 126 号：編集中（2024 年 11 月発行予定）</li> </ul> </li> <li>4. 「栄養学レビュー」誌展望 OUP に対して来年以降の契約変</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部会活動報告の配信（1 月、3 月、5 月、7 月、9 月、11 月）</li> <li>2. 機関誌「イルシー」の発行（2 月、5 月、8 月、11 月）</li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（2 月、5 月、8 月、11 月）</li> </ol>	4. Oxford University Press (OUP)

		改定	<p>更を打診。公表形態と費用について今後協議する(7/5)。</p> <p>5. ILSI Japan ホームページ 現在のホームページを全面改定する場合の作業、並びに費用について2社の説明を受けた。両社共200万円強の見積もり(5/28~6/28)。</p>		
--	--	----	---	--	--

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>(1) 第3回支部理事会フォロー（本部への拠出金について）(5/4, 21)</p> <p>1) 本部に対して下記ポイントを確認・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どうして支部が本部総会の費用をカバーするのか（背景） ⇒ ILSI 組織体が代わり、総会費用については、支部で分担することがグローバル理事会で決定。</li> <li>• 今後本部総会の費用を毎年支部が支払う形を継続するのか？ ⇒ 本部総会の在り方も含めWGを作って議論している。</li> <li>• 支払いを拒絶した場合はどうなるか？ ⇒ ILSI グループからの退会となる。</li> </ul> <p>(2) 第4回支部理事会(6/7)</p> <p>1) 本部総会資金(US\$6,500)捻出について 本部体制の変化、本部からの情報等、満足できない状況ではあるが、支部経費削減案を事務局が理事に提示したことにより、拠出金支払いについて、決議された。</p> <p>2) 理事会体制強化について 議長より ILSI Japan の情報発信の在り方、本部の情報の取り方がうまく行われていないことを感じ、理事会体制の強化プランを提案</p>
事務局	<p>(1) 本部活動</p> <p>TAKE10!®商標対応(5/28, 6/7, 13)</p> <p>ILSI Research Foundation の後継団体、the Agriculture and Food Systems Institute (AFSI) が商標を維持していることから、今後の進め方について打診メール、リマインドメールを送付。</p> <p>(2) 他支部活動</p>

1) ILSI Taiwan (6/17-21)

訪日対応

- ① 6月17日(月) 理化学研究所(横浜)、カップヌードルミュージアム
- ② 6月18日(火) キッコーマン、明治
- ③ 6月19日(水) セブンイレブン、JFEX FOOD(加工食品 EXPO)、国立医薬品食品衛生研究所
- ④ 6月20日(木) 味の素、花王
- ⑤ 6月21日(金) ILSI Japan、サントリー武蔵野工場

2) 東南アジア地域支部(6/26)

Web会議を開催し、情報交換した。

- ① ILSI SEARの会費、活動費徴収枠組み
- ② ILSI SEAR-Japan共同研究部会について
  - ✓ 農水省プロジェクト
  - ✓ 合同メンバー交流、研究部会設立